

ほとけの混和会だより

令和三年九月

東光院

仏の混和会

第155号

連日の猛暑やコロナウイルス、心配ごとの絶えない毎日御座います。檀信徒の皆様は、於かれましては、お変わり無く、益々ご清勝のことと拝察申し上げます。



おまかせ地蔵

命の継承

去る八月四日、本堂の前にお祭りされている、このお地蔵さんの作者が逝去されました。それは、あまりにも突然の出来事でした。

作者の横尾忠さんは、庭の草取りをしていたのですが突然気持ちが悪いと家に入り横になって居ました。家族の方も心配されて「救急車を呼ぼうか」と声をかけると「大丈夫だよ」と何事も無いように会話を交わしていたとの事でした。

ところが、しばらくして見に行ったらすでに息絶えて居たと言うのです。

うそのような出来事に家族や地域の人々は信じがたい思いで呆然としておられました。

ご家族に死因を尋ねると熱中症でも無くウイルスの感染でも無く、はっきりとした死因は解らないとの事でした。

しかしお姉さんには「姉ちゃん、俺ももしかしたら姉ちゃんより先に行くかもしれないよ」と言っておられたとの事でした。

私は「もしかしたら忠さんはご自身のお身体が思わしくない事を察知して、仏様の導きにおまかせしよう」と覚悟を決めておられたのではなからうか、「などと勝手に思いを巡らしてしまいました。」

実は上記のお地蔵さんは忠さんが平成十三年の春に「おまかせ地蔵」と言うテーマの元に制作されたものなのです。

大自然の営みや己の思いなど日々の生活の中には思うがままにならないことが沢山有ります。この思うがままに成らない事を己の思うようにしようと思つた時、その思いが迷いと苦しみを招いてしまいます。

思うがままに成らない事は全て仏様におまかせしようと思いを定めた時、迷いや苦しみから解放され揺るぎない安心が抱けて参ります。

その御仏の導きに身を委ねる強く大きな思いが抱けるように願いを込めて「おまかせ地蔵」と命名し制作されたのでした。

私達は己の死を否定的に受け止めてできるだけ遠ざけたいと臨んでしましますが、肯定的に己の命が人々の心に永く生かされるよう努め、意義有るものと成るよう受け入れたいもので御座います。現在六十八歳の私も、御仏の導きに身を委ねた忠様の御心、しっかりと受け止めて参りたいと存じます。



なむあみだぶつ 南無阿弥陀仏

「永遠の時を司る仏様におまかせ」

「南無阿弥陀佛」とは

インドの「ナーマス、アミータユス、ブツダ」という言葉を漢字に音写して、私達は「南無阿弥陀佛」とお唱え致します。

「ナーマス」とは、お任せします。帰依します。と言う意味で、「アミータユスブツダ」とは、永遠の時間を司る仏と言う意味に成ります。

よって、大自然大宇宙の永遠とも言える時間、この営みの中で、私達はほんの一瞬この世に生を受けて生かさせて頂いております。その大いなる時を司る仏様に身も心も「南無阿弥陀佛」と委ね、安らかな導きを念ずる神聖な名号で御座います。 亮観拝

日本博 JAPAN CULTURAL EXPO
特別配信のお知らせ



私も参加させて頂いているお経に節を着けてお唱えする「声明」の会が出演した公演の様子がこの度、期間限定で特別配信が決まりましたのでこの場を借りてご紹介致します。

●日本博主催・共催

「月・雪・花」四季折々の「日本博」とは「日本人と自然」をコンセプトに、過去から現代へ続く日本の文化・芸術等を国内外へ発信し、次世代へ伝える事を目的に全国各地で様々な催しが展開されている事業です。

有り難い事に天台宗の声明も歴史有る「古典伝統法儀」として何度か参加させて頂きました。

その一つ、2月28日に国立劇場にて上演された「月・雪・花」四季折々の「日本博」という公演の様子が「バーチャル日本博」という



独立行政法人 日本芸術文化振興会
Japan Arts Council

日本博の特設サイト内にて配信が開始されました。本公演は日本の美、伝統芸能を四季折々の自然から感じ取る

心情「月・雪・花」というテーマにそって歌舞伎俳優の尾上菊之助さんの歌舞伎を中心とした長唄・雅楽・尺八・琵琶・琉球舞踊などが一堂に会します。

お経以外にも多くの演目の良い所が詰め込まれた映像となっており。芸術の秋、ステイホームのお供に芸術鑑賞など如何でしょうか。

皆ステージ外での何気ない行動一つとっても美しく、常日頃から規律を重んじて過ごされているのだと痛感させられました。簡単に口から出る言葉より、普段からどのような行動をしているかが大事であると改めて感じ、伝統芸能界の第一線で活躍されて居られる方々の姿を間近で体感出来た事はジャンルは違えど、とても勉強になる事が多かったです。

●ご試聴はインターネットで <https://youtu.be/1GqafHDTCP4> と「UR」を打ち込んで頂くか左のQRコード、又は「バーチャル日本博」のサイト内の「S4-2」と言う場所からご覧ください。



YouTube
月・雪・花
四季折々のところ
配信期限
令和3年
10月31日まで



われただたるをしる
心豊かに吾唯足知

【SDGs】一抹の不安
国連が定めたSDGsの第一に「貧困の格差をなくそう」とあります。

しかし地球上の全人類が先進国と同じような豊かさを求めたらエネルギーも食料も地球が二つあっても足りず紛争の元となってしまいます。

今必要な事は物質的な豊かさでは無く内面的な豊かさの会得が肝要かと思えます。

石庭の京都竜安寺の裏庭に水戸の黄門様が寄進された「吾唯足知」と記された蹲踞があります。心の豊かさ、脱炭素、持続可能な社会を築く上において、とても有意義な言葉かと思えました。

「孟蘭盆法要」並びに「施餓鬼会法要」を執り行いました。

本年度は緊急事態宣言下での法要となりましたが、檀信徒各家先祖代々のご供養を、代表して厳修させて頂きました。



本年度は例年通りの盆参りや法要が儘なりませんでしたが、どの様な形であれ、先立たれた方々へ感謝の心を捧げる。忘れてはいけない大切な日本の心だと思えます。 亮澄 合掌

「自然と共に生きる」

八月二十八日(土曜日)

「ほとけのおそば」と命名されたおそばの種まきを致しました。

炎天下の大変な作業ではありましたが、共に成し遂げた



心地よい達成感を共有する事が出来ました。ご協力心より感謝申し上げます。